

小学校 図画工作科 部会

部会長 中元寺小学校 校長 中川 雅彦
実践者 川崎東小学校 教諭 香川ゆかり

1 研究主題 「確かな学力向上をめざす図画工作科学習指導のあり方」
～感性を働かせ、つくりだす喜びを味わう活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

現代社会は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われている。このような知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になってくる。

変化の激しい社会を担う子どもたちには、基礎・基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人と共に強調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性が必要になってくる。そのため、豊かな感性を働かせながら、自分の思いや願いを様々な形で表現したり、周りの人たちの表現の違いに気づいたり、それを認めたりする能力を育てることが大切である。

以上のようなことから、図画工作の実践は、児童の「生きる力」を育むうえで重要な働きをしていると考えられる。

(2) 図画工作科の目標から

図画工作科のねらいは、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことである。

図画工作科の学習は、自らの感性を働かせながら、造形的な創造活動の基礎的な能力を発揮して表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうものである。このような過程は、その本来の性質に従い、おのずとよさや美しさを目指すことになる。それは、生活や社会に主体的にかかわる態度を育てるとともに、伝統を継承し、文化や芸術を創造しようとする豊かな心を育てることにつながる。

児童自身に本来備わっている資質や能力を一層伸ばし、児童が自らつくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う活動に取り組むことは意義深い。

(3) 児童の実態から

本学級の児童はどちらかと言えばおとなしく、消極的な児童が多い。図画工作科に対し

でも創造的な活動は苦手な児童が多く、特に初めて取り組むことなどにはしり込みしてしまう児童もいる。しかし、その反面コツコツと丁寧に取り組むことができ作品を綺麗に仕上げるができる。

子どもたちの資質や能力が十分働くように、様々な体験や様々な表現の方法を取り入れた学習を仕組んでいくことが大切であると考え。また、全ての子どもたちが自分の作品に自信を持って取り組めるような活動のあり方を工夫していく必要がある。

3 主題の意味

(1) 図画工作科における「確かな学力」とは、基礎・基本としての資質や能力を支え、その基盤となる知識や能力、見方・感じ方と考えられる。ただ作り方や描き方を機械的にたどっていけば身につくものではない。子どもが自分で具体的なものに目を向け、そこから自分の思いを材料に託して表現するなかで、子ども自らが気づき身につけていくものである。つまり、子どもの表現や鑑賞の活動と常に一体となって働く力であると考え。

そのためには、ある題材の中で育てたい資質や能力を可能な限り具体的な子どもの姿で設定することが大切であると考え。さらに、その資質や能力を支える知識や技能・感じ方を発達段階や実態をもとに考え、子ども自身が気づき身につけていくことができるように、学習過程や支援のありかたを工夫していくことが大切である。

このような学習過程を行っていくことで、図画工作科における「確かな学力」が向上していくと考える。

4 研究の目標

図画工作科における確かな学力の向上をめざすために、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わう学習活動のあり方を究明する。

5 研究仮説

図画工作科の学習指導において、次のような手だてをとれば児童は感性を働かせながら意欲的に活動し、確かな学力向上へとつなげることができるであろう。

- (1) 児童の表現意欲を喚起することができるように、題材との出あわせ方を工夫する。
- (2) 児童の表現意欲を持続させるために、材料や用具の工夫と時間の確保をする。
- (3) 友だちの表現の良さに気付くことのできる鑑賞活動を設定する。

6 研究の計画（授業の計画）

- (1) 題材 「ぼく・わたしのたからものを表現しよう」
～小学校生活の思い出を残そう～

- (2) 題材の目標及び指導計画

題材	ぼく・わたしのたからものを表現しよう	総時数5時間	1月
	○自分らしさが表現できるように、意欲的に活動する。 (関心・意欲・態度)		

単元目標	○心の中を見つめ、自分のテーマを見つけて表現する。 (発想・構想の能力) ○自分のテーマに沿って、構図・着彩などの表現方法を工夫する。 (創造的な技能) ○お互いの作品を鑑賞し合うことで、見方や考え方を深める。 (鑑賞の能力)	
授業計画	学習活動・内容	指導上の留意点
第1時	1. 卒業にあたって、これまでの自分の成長を支えてきてくれたものについて考える。 2. 考えたものをキーワードで書きたため表現したいものを選ぶ。	・入学から卒業までの様々な場面を思い出し、その時身近にあったものについて考えさせる。 ・心の中をじっくりと見つめ、見つけたものをできるだけキーワードで書かせる。
第2時 第3時	3. 自分のテーマに沿って、構図を工夫し表現していく。	・同じものでも見る角度によって違った印象になることを知らせ、画面の組み立て方や構図を工夫させる。 ・絵手紙を描いた時を思い出させ、題材をじっくりと見て、和紙に墨をつかって描かせる。 ・ただ単に写實的に描くのではなく、自分の内面が表現されるような作品に仕上げさせる。
第4時	4. 下書きが済んだら、着彩をする。 5. 自分の表現した作品を見ながら、自分の思いを言葉で表す。	・墨を使って筆で描いた線が生きるように、絵の具や水の量を考えながら着彩させる。 ・それを使っていた時の気持ちや心の動き、親への感謝の気持ちなどを思いめぐらせながら言葉で表させる。
第5時	6. 作品の発表会をする。	・でき上がった作品の発表会をし、お互いの作品のよさや美しさ、友だちの題材に対する思いなどを感じ取らせる。

7 指導の実際

【第1時…導入】

本単元の指導にあたっては、小学校生活を終える学年というとらえから、これまでの自分を見つめ、自分の成長や大切にしてきたものを題材として選ばせることをねらいとして取り組ませた。

そのため、導入段階では「卒業にあたって、これまでの自分の成長を支えてきてくれたものを絵に表現しよう。」と投げかけ、小学校生活の振り返りをさせた。みんなで色々な

行事や出来事を話し合う中で、心にうかんだもの見つけたものをキーワードで書かせ、その中から表現したいものを選んだ。なかなか思い浮かばない児童も友だちと話す中で題材を見つけることができていた。

【第2・3時】

前時に選んだ題材を持って来させて実物を見ながら描かせた。ランドセルを選んだ児童が多くいたが、同じランドセルでも見る角度によって違った印象になることを知らせ、画面の組み立て方や構図の工夫をさせた。

また、和紙と墨を使わせることでいつもとは違う雰囲気をつくり、小学校生活を終える卒業というものを意識させながら取り組ませた。児童は身近に迫った卒業を思いながら、今までの思い出話などしながら筆を動かしていた。

筆と墨を使わせていたので、墨の濃淡で表現したり、筆を寝かせたり立てたりして表現したりして友だちと違った作品ができていくのもおもしろかった。



【ランドセルを見ながら下書き】



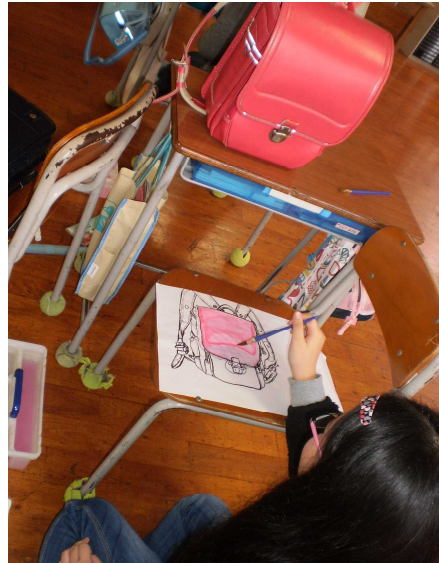
【第4時】

前時に描いた下書きに着彩した。全体をまんべんなく着彩していき、混色に使う水の量は多めにし、下地の墨の線が見えるように工夫させた。

表側からランドセルを描いている児童には、ふたの部分のカーブのぬり方をどのようにすれば良いか考えさせ、丸みを出すように工夫させた。

着彩が終わった児童から、事前に下書きしていた自分の思いの文章を筆を使って書かせ

た。下書きなしで筆で書くという緊張感のなか、それぞれの思いを一字一字丁寧に書いていた。しんとした静かな雰囲気の中、卒業を前にした6年間をそれぞれ感じながら取り組んでいるようだった。



【着彩する子どもたち】



【自分の思いを文章に…真剣です】



【第5時】

参観日を利用して『ぼく・わたしのたからもの表現しよう』と題して発表会を行った。それぞれ描いた作品を見せながら、それに対する思いや6年間の思い出・親への感謝の気持ちなどを発表した。おうちの方が来ているということもあり、少し照れ臭がる子どもの姿も見られたが、いつもは感じるができないような優しい雰囲気にも包まれていた。

友だちの作品を見ながら、コメントを書き、どの子もそれぞれの作品の良さや美しさなどに関心をもって見ることができていた。

8 成果と今後の課題

(成果)

- 卒業を目前にしたこの時期にこの題材に取り組ませたことは、より卒業を意識したり6年間の思いを振り返らせるには大変良かったと思う。
- ランドセルを選んだ児童が多くいたが、同じランドセルでも見る角度によっては全く違った印象になることを知らせ、画面の組み立て方や構図などの工夫ができるようになった。
- 絵手紙をかいた時は、短い言葉なので絵を描いてすぐに言葉をかかせたが、今回は自分の思いを少し長い文章にするので、事前に下書きを書かせておいた。そのため、着彩が終わるとすぐに筆で自信をもって書くことができていたように思う。

(課題)

- 導入段階で「卒業にあたって、これまでの自分の成長を支えてくれたものを絵に表現しよう」と話し合いをさせたのだが、あまり話し合いがふくらずほとんどの児童がランドセルになってしまった。事前に、教師が一人ひとりの考えや思いを聞いて授業に臨んで発言を引き出せば、もっと色々な題材がでてきたのではないかと思う。

◎参考文献

小学校学習指導要領解説 図画工作編
学習指導要領の解説と展開 図画工作編

図画工作 学習指導書

文部科学省
安彦忠彦 監修
藤江充・三澤一実 編著
教育出版
開隆堂